

序 研究意義

イデオロギー不在時代の都市論の危機と、近代的自立期を迎えた台湾に於ける「歴史」の希求性を述べ研究意義とする。

第一部 既往研究の整理と解釈

第一章 本論への準備

(1) 既往研究との差別化

- 先達の論考を踏まえ、以下を本論の特徴とする。
- ・諸分野の研究を加味し、包括的な都市形態変遷史を描く。
- ・現在との比較により都市計画の計画学的な面から近代性の評価を与える。

(2) 研究方法

文献調査、復原地図の作成、現地調査(2008.07.15-07.23)

第二章 近代植民地史・都市史に見る日帝の位置づけ

日帝の近代植民地史・都市史を世界史と並行的に述べ、台湾植民地政策の位置づけを行う。

第三章 台湾史概観とその現代的な意味に関して

台湾の歴史を整理し、初の台湾史教科書『認識臺灣』と比較することで、歴史構成主義的に現代台湾に於ける歴史の効用を述べる。

第四章 諸分野の整理と都市形態の分析への視座

(1) 都市史に見る近代化の過程と、近代思想の受容に関して

日本に於ける近代都市思想の受容過程について考察する。

(2) 法、制度に見る台湾の位置づけ

日掘時代に於ける法、関税制度、通貨制度の成立過程を追い、台湾の大日本帝国化の過程を述べる。

(3) 経済、人口、貿易等統計学的指標に見る現実的ファクターについて

日掘時代に於ける経済、人口、貿易の変遷を追い、台湾植民地政策の内情について触れる。

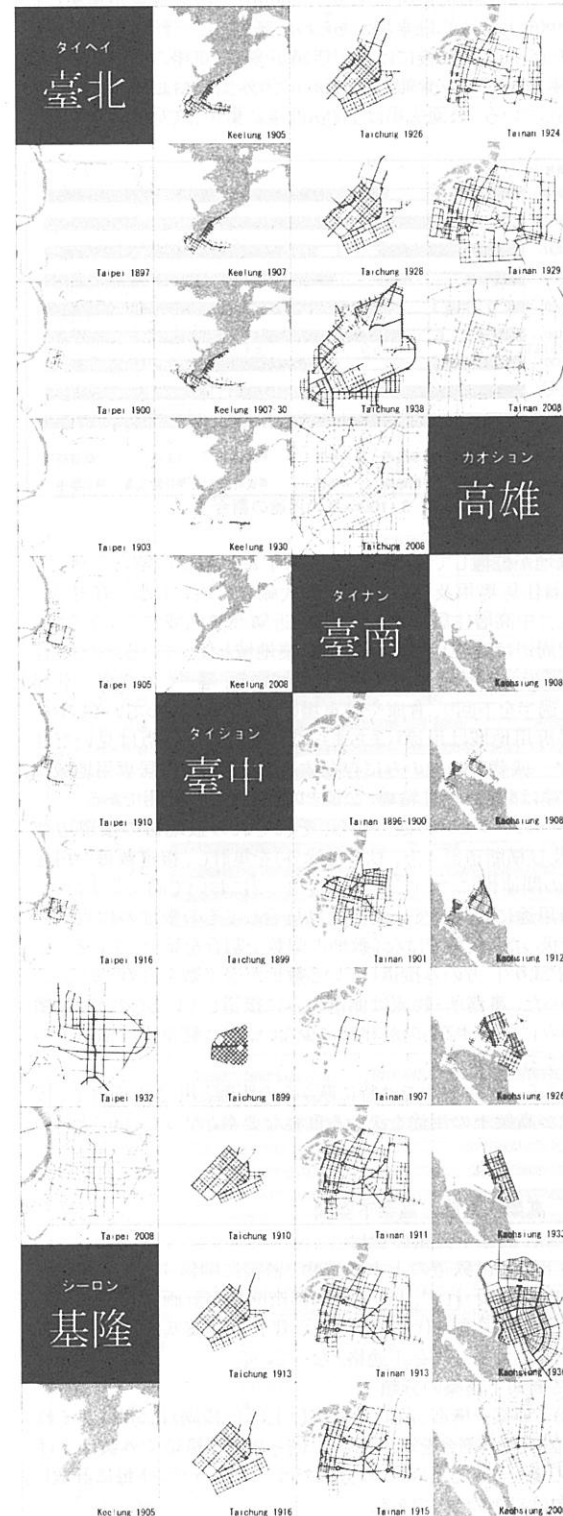
第二部 市区改正計画による都市形態の史的変遷

『臺灣都市發展地圖集』(黄武達著編)を元に台湾の主要都市(台北、基隆、台中、台南、高雄)の復原地図を作成し、都市形態の変遷を明らかにする。また、市区改正計画道路の計画量と実現量を測ることで、都市計画の現実的な様相に迫る。



第五・六・七・八・九章 台北・基隆・台中・台南・高雄

下記に示すのは作成した復原地図である。統治以前の都市形状、市区改正計画の変遷、そして現在(2008)の都市形態を追い、都市計画の変遷と現在との比較を行っている(黒線で示してあるのは市区改正道路計画である)。



第三部 台湾諸都市の都市計画に於ける近代性と現代

台湾の都市計画について「形態」「機能」「象徴」という視点を用意し、日掘時代、現代を比較し考察する(右記参照)。

第十章 市区改正計画道路の形態分析

(1) 日掘時代(1895-1945)

1930年代を境に既存の土地形状、自然風土に立脚した漸次的な都市計画から、全体性を考慮した修辭的な都市計画へ

(2) 現代(2008)

現在の台湾都市の骨格は日掘時代の市区改正計画である。

第十一章 都市の機能と人口分布

(1) 日掘時代(1895-1945)

- a. 軍施設、遊郭、宗教施設(社寺)をもつ植民地的機能配置
- b. 日本人と台湾人との居住環境の差別化
- c. 1930年代の全体的な機能性を軸とした都市計画構想

(2) 現代(2008)

a'. 植民地都市の機能が消え、教育施設の分散配置、副都心計画といった民主主義的な都市計画

b'. 人口密度の分散化

c'. 1930年代の都市計画は換骨奪胎され部分的に実現

第十二章 様式変遷に見る象徴性の変遷と権力分析

(1) 日掘時代(1895-1945)

「台湾総督府—台湾神社」という超国家イデオロギーに基づく象徴論的軸線と、1930年代後期の神社建設急増によるその強化

(2) 現代(2008)

「台湾総督府(文化)—TAIPEI 101(経済)」という近代的自立期にある台湾のアイデンティティを標榜する不可視の軸線

第四部 現代都市計画への視座について

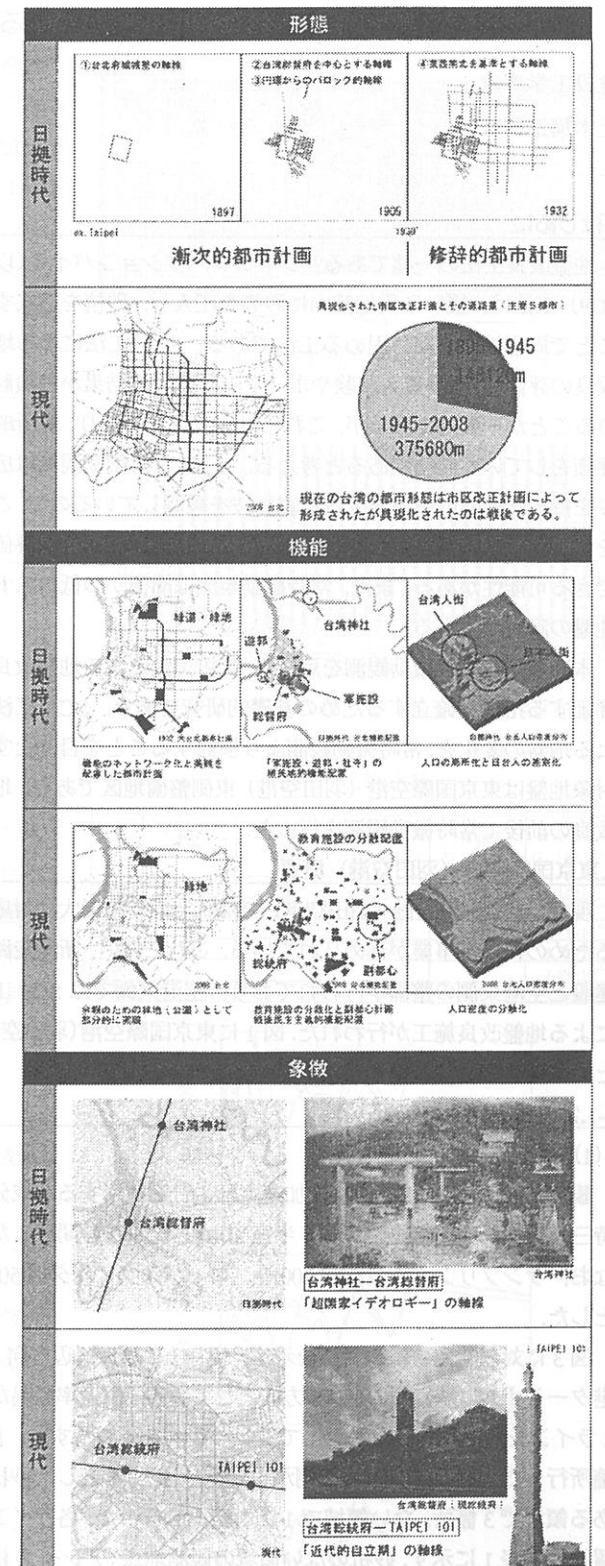
第十三章 亭仔脚の役割と現代都市との関係性と可能性

台中市の中心地3×3kmを対象に、都市のヴォリュームの変化と人口密度、都市景観との相関関係のスタディを行う。

終章 総括

台湾諸都市に於いて1930年代を契機に近代都市計画の思考、及びファッション化が強まるが、具現化が戦後であったこと、また日帝消滅によって両者は虚構と化した。しかし、戦後民主主義を標榜する近代都市計画の萌芽の一端は、その虚構性(=日掘時代)に見出せる。

今後のアジア諸国との関係、また混迷を極める現代都市に建築家が関与する際、植民地研究は有用な視座を与えてくれる場であると考え。本論がその一端でも担っていれば幸いである。



参考文献

- ・黄武達『臺灣都市發展地圖集』 南天書局有限公司 國史館臺灣文獻館 2006
- ・青井哲人『植民地神社と南洋日本』 吉川弘文館 2005
- ・青井哲人『昭和一九〇六年 市改正が都市を動かす』 アセテート 2007
- ・趙淑明『台湾・満州・中国の都市計画』 岩波書店 1993
- ・黄仲瑞 監『臺北市志』 成文出版社有限公司 1957
- ・山本有造『日本植民地都市史研究』 名古屋大学出版会 1992
- ・藤原照彦 他『全調査東アジア近代の都市と建築』 筑摩書房 1996
- ・国立編譯館『台灣地理と歴史教科書 認識臺灣』 雄山閣 2000
- ・橋谷弘『南洋日本と植民地都市』 吉川弘文館 2004
- ・黄武達『臺灣近代都市史研究』 台湾都市研究会 1998
- ・黄麗群『台湾都市の文化的多面性とその都市計画過程に関する研究』 1993 他